

エイレナイオスの聖霊論	塩谷 惇子
エペクタシスの道行き	宮本 久雄
Augustine the Bishop in the Light of New Documents	Peter BROWN

第7号

巻頭言	宮本 久雄
アウグスティヌスの聖書解釈をめぐって ——『神の国』からの視点——	加藤 信朗
淵が淵を呼ぶ ——『告白』一三・一三・一四——	荒井 洋一
真理観の転回 ——アウグスティヌス懐疑論批判の射程——	岡部由紀子
存在の現成のダイナミズム ——受肉・神人性の教理と愛智との関わり——	谷 隆一郎
The Neoplatonic Theme of Return in Eriugena	Édouard JEAUNEAU

第8号

巻頭言 小さな神	熊田陽一郎
アウグスティヌス、『創世記逐語注解』における 靈的被造物の向き直りについて ——アウグスティヌスの「コンウェルシオ」と プロティノスの「エピストロペー」の比較研究のために——	森 泰男
アウグスティヌスの記号論	樋笠 勝士
青銅の蛇の物語 ——予型論の意義をめぐって——	柴田 有
アウグスティヌスとストア哲学 ——『問答法について』第六章〈言語起源論〉を中心に——	水落 健治

アレイオスとアレイオス主義再考 泉 治典
ニケアとの出会い

——ヒラリウス『三位一体論』と信仰—— 出村 和彦

My Life-long Adventure with Saint Athanasius

Charles KANNENGIESSER

第4号

巻頭言 破黙への教父学 今道 友信

「語りえぬ者」について

——フィロンとユスティノス—— 柴田 有

オリゲネスのヨハネ福音書序文（ロゴス賛歌）の解釈

——他のギリシア教父の解釈と比較しつつ—— 小高 毅

オリゲネスにおける解釈学的原理

——『原理論』と『ヨハネによる福音書注解』から—— 久山 道彦

「ギリシア人の剽窃」に関する

アレクサンドリアのクレメンスの見解 久山 宗彦

第5号

巻頭言 加藤 武

*διαλεκτική*と*λογική*

——Ammonios Hermeiou, In De Interpretatione,
Prolegomena——

水落 健治

テルトゥリアヌスの結婚観

木寺 廉太

悪を選択する自由

岡野 昌雄

Augustine's Roman Empire:

Reaching out from Hippo Regius Neil B. McLYNN

第6号

巻頭言 受容としての教父研究 柴田 有

古代の二人の歴史記述家：ヨセフスとエウセビオス

——古さをめぐる歴史記述について—— 秦 剛平

パトリステイカ既刊号目次

創刊号

- 巻頭言 加藤 信朗
隠喩の生成
——Ambrosius, Hymnus I から
Prudentius, Liber Cathemerinon I へ—— 加藤 武
トマス・アクィナスにおける摂理と人間の自由
——『真理論』第二問、第十二項—— 渡部 菊郎
フィロンの聖書解釈の一側面 野町 啓
アレクサンドリアのクレメンスにおける古典学の変容
——『オデュッセイア』の解釈に向けて—— 秋山 学

第2号

- 巻頭言 泉 治典
アルクイヌスとフレデギスス
——文法学・論理学・神学をめぐって—— 清水 哲郎
ディオニシオス・アレオバギテース『神名論』における
新プラトン派的言語とキリスト教的言語
——『神名論』第二章を中心に—— 熊田陽一郎
教父研究の現在 今道 友信
〈始まり〉の問いとその行方
——「ヘクサメロン」の西と東—— 荻野 弘之

第3号

- 巻頭言 K・リーゼンフーバー
ことばと真理
——アウグスティヌス『教師論』における問題の所在——
中川 純男